

物理学科の (A) 学位授与の方針とそのための (B) 教育課程編成・実施の方針

「自由・自立の精神の堅持」

(A) 在学中の目標と履修計画を自ら立てて、未知の問題解決能力を獲得するための努力を怠らず、卒業研究を通じて全人格的教育を受けて修業年限以内に卒業要件を満たすこと。

(B) 物理学の基礎を学びその考え方を問題解決に活用できる総合的能力を身につけることができるように、普遍教育および専門教育をバランスよく編成し、卒業研究等を通してそれらが有機的に繋がった真の知識となることを目指したカリキュラムを提供する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」

(A) 理学が現代社会の基盤となっていることを忘れず自己の専門分野をマスターし、卒業研究・演習等を通じた全人格的教育を受けて社会に貢献できる者となること。

(B) 物理学の文化的な位置づけと社会的責任を理解して、社会の発展のために役立てることができる人材を育成するべく、普遍教育と専門教育をバランスよく編成し提供する。

「普遍的な教養」

(A) より良き人格形成の手段としての普遍教育を活用し、理学の知識や考え方をを用いて社会に貢献できる人材となるべく、自らを律することができること。

(B) 多様な文化・価値観、社会、自然、環境について物理学の考え方で理解し、直面する課題について多面的な考察を行い正しい認識を持つことができる人材育成を目指し、専門教育では多彩な物理学の分野の科目を提供し、普遍教育では外国語、人文社会科学、スポーツ健康科目など広い教養を身につけるカリキュラムを提供する。

「専門的な知識・技術・技能」

(A) 現代社会を支える理学の基盤となる基礎学問をマスターし、様々な専門知識を有機的に結合して論理的・多面的な検討ができること。

(B) 講義科目で学習した物理学の専門知識、論理的思考や手段を、演習や実験、卒業研究などを通して学生が主体的に活用できる実践的教育の機会を提供する。

「高い問題解決能力」

(A) 理学の知識・専門性を問題解決に活用し、様々な人間・手段・情報を活用して、何事にも一所懸命取り組むことができること。

(B)
・演習科目や学生実験、卒業研究などにおいて、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を目指す実践的教育を行う。さらに、普遍教育の「英語科目」や理学部と各学科が提供する英語科目を通して、英語の基礎能力を高める教育を提供する。

・高度な物理計算や情報通信の利用など、現代物理学に不可欠な計算機利用技術、知的財産権や情報倫理などの知識等を修得できる、普遍教育としての「情報リテラシー科目」と専門教育における計算物理学関連の講義・実習科目を提供する。

・他者と協力しつつ、主体的に問題解決に取り組む能力を涵養するために、協働して取り組む実験科目や演習科目、スポーツ・健康科目をカリキュラムに取り入れる。

・理学の知識・技能・考え方等を総合的に活用し、社会的要求を踏まえて自らが立てた新たな課題に対して一所懸命に取り組む人材を育成するため、卒業研究等の学生自身による自主的・実践的研究の場を提供して高度な問題解決能力を涵養する。